

認知症治療の一貫したシステムとして サプリメントを監修・販売

現在、増え続ける認知症。厚生労働省データによると、2025年には全国で認知症患者700万人を超え、65歳以上の高齢者のうち、5人に1人が認知症に罹患すると言われている。このことから認知症予防への関心は非常に高まっている。こうした状況を受けて、ひろかわクリニックの広川慶裕院長は自らサプリメントの監修などを手がける傍ら、自院においても読書やパズル、運動などを通じて認知症予防に取り組んでいる。それらによる効果や可能性、患者への影響を聞いた。

**視覚化した情報を提供し
治療に対する積極性を
喚起させる**

サプリメントの監修・導入に力

を注ぐのは、認知症専門診療所と

して昨年、京都府宇治市に開業し

たひろかわクリニックの広川慶裕

院長だ。一般にサプリメントは、保

険診療に対する「副業」のように捉

えられがちだが、広川氏がめざす

医療においてはむしろ「本業」なの

だという。

1989年から本格的に精神医

療に専念してきた広川氏は、精神

薬の点滴投薬する際、ビ

タミン剤によって効き目

に大きな差が発生してい

ることに気付いた。さら

に研究を重ねることで広

川氏は、脳の血流と栄養

が認知症に大きく関わっ

ていると確信する。

「脳が活動するには、酸

素とともに十分なATP

(アデノシン三リン酸)が

必要です。これを生成す

るのに必要なビタミンを

補うことで、身体も脳も

元気になっていく。この環境を整

えることが治療に不可欠です」

当初は必要なビタミン剤を処方

していた広川氏だが、手軽に飲み

続けるためには、専用のサプリメ

ントを用意することが治療にうっ

つつけだと考えた。昨年、独立開

業に併せ、「ATPサポート」の名

称でサプリメントを監修開発。診

療所での販売を開始した。

同院では、認知症セミナーや認

知症トレーニング教室(認トレ)な

どの地域啓発活動を行っており、

患者だけでなくこの参加者からも

購入者が広がってきているという。

ただ、1カ月分(270カプセ

ル)で5400円(税込)という価格

設定であり、サプリメントそのも

のが診療所経営を左右する売り上



脳トレじゃんけんを行う様子



院内で販売されるサプリメント

げとはならない。だが、東北地方
 中国・四国地方まで広い範囲か
 ら購入者や受診者が同院にアクセ
 スするなど、診療所選択の大きな
 要因ともなっている。

「注意して欲しいのは、サプリメ
 ントはあくまで認知症になりにく
 い脳の環境づくりであることです。
 必要なビタミンを補給したうえで
 音読やパズル・運動などのトレー
 ニングを続けた方が、目に見えて



ひろかわクリニックの広川慶裕院長

改善しています」と広川氏は説明
 する。

開業以前から広川氏が治療を提
 供する患者は地域に約200人。

脳の血流を見るSPECT検査や
 MRI画像診断なども併用し、視
 覚化した情報を患者・家族に提供
 することで、治療に
 対する積極性を喚起
 しているという。

「認知症の治療・予
 防はこれだけやれば
 良いという単純なも
 のではありません。
 “しんどい思い”もサ



DATA

ひろかわクリニック
 京都府宇治市宇治妙楽24-1
 ミツダビル4F
 TEL : 0774-22-3341
 URL : <http://www.j-mci.com/>

プリメントも重要。治療成績を元
 にさらに良い医療サービスにつな
 げていきたい」(広川氏)